

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・店の開店祝い、退職用、卒業式等の花の需要があり、今月はそこそこ満足な売上となっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・レジ客数が前年を上回る傾向が続いている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・先月あたりから来客数が増えてきた。最悪時に比べて前年を2けた近く上回る日も出てきている。問題は客単価であり、低下に歯止めがかからない。いろいろな政策を打てば戻ってくると思うが、高額品の動きもまだまだ鈍いので、引き続き注意を要する。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・全体的に高校無償化、子ども手当等の実施により、家計にゆとりが出てきた。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数、販売点数が前年並みに戻ってきた。ただし売上は、単価を安くした分、全体的に少し落ちている。食品、住関連の必需品商品が安定的に購入されるようになってきているほか、エコ素材を使った日用雑貨、家庭用品が非常に伸びている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・目を見張るような景気回復はないが、販促内容や売場改善等によってディスカウントストアへ流れていた客が徐々に戻ってきており、来客数が前年比100%に近くなっている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・販売量は今のところ前年の9月が底で、わずかだが回復基調にある。しかし、いまだに低水準にとどまっており、特売、安売り志向が強い。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・客単価が少し前年を上回る店舗が出始めている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・来客数は前年割れであるが改善の傾向にある。3月中旬の気温の急激な低下がなければ回復に向かっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・テレビのエコポイント対象商品が切り替わるため、駆け込み需要が発生し3月のテレビの需要はパブル状態であったが、これから続くかは不透明である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算月であるため、来客数が多く受注を取ることができた。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年比約10%弱増加している。それに伴い購買量も増え、客単価も若干上がっているため、売上は1、2か月前に比べ若干上がっている。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・補正予算の影響が世間に金が回り始め、抑えていた購買意欲が刺激されている。ただし長続きはしない。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・来客数は少し回復傾向にあるが、客単価が少し落ちているため、売上は横ばい傾向である。ただし、景気は底を打ったようである。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	来客数の動き	・空港の搭乗客は前年比98%で推移している。それに伴い売上も同様に改善してきた。空港自体に活気が出てきた。
		観光ホテル（総務担当）	来客数の動き	・3月は宴会部門が好調だったほか、宿泊にも持ち直しの兆しが見えている。
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・インターネット等の予約については、単価を多少下げると随分動きは活発になる。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・前月に引き続き個人旅行は活発になっている。客の商品選びは厳しいが確実に増えている。ただし、企業・団体旅行は依然として少ない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・卒入学等で毎年この時期は財布のひもが少しは緩んでいるが、今年はいくらか緩みが大きい。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・3月もほぼ横ばいとみられたが、宿泊や飲食、ゴルフも堅調に推移し、やや良くなってきつつある。	
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・中心街の大型店の撤退が発表され、状況的に非常に悪い。来街客数も少なく、客単価も低くなっている。

商店街（代表者）	単価の動き	・2月の中旬以降、来客数が増え順調に推移するかにみえたが、3月に入り来客数が平年並みになり、しかも客単価が低下している。
一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・来客数と購入単価の減少は相変わらず続いてはいるが、今までのような大幅な下げは止まったようである。3月に入ってからも冷えこみが厳しく、売上減少につながった。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・地域初のブランド等、特徴があるものは売れているが、特徴のないものには客は反応しない。価格が安くても必要のない物は売れないのは先月と同様である。
百貨店（総務担当）	販売量の動き	・管理している商業ビルの改装から1年経過し、来客数は増加しているものの、客単価が大幅に下落し、売上は前年を超えられない状況が続いている。
百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が増加した。特に日祝日の来客数が伸びている。レジ客数、店頭売上も増加し前年実績を上回った。また、下旬には中国観光客の来場もあり、地区のにぎわいも増してきた。一方粗品付の全店催事では粗品の交換が伸びず、バーゲン比率もやや上昇した。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・売上は大きく変わらないが、前年に比べ来客数が増加したほか、催事等の企画に対する客の反応はやや良くなりつつあり、これまでなかった傾向が出始めている。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・依然として来客数の減少傾向と、客単価下落傾向が続く。特に大型商品や呉服、宝石、美術等の高額商品の低迷が全体の単価を大きく落としている。こちらから提案した地域催事とのコラボや、価格に特化したセールでは実績を確保しているが、日々の来客数の減少傾向の歯止めとはなっていない。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・依然として購買には慎重である。3月だから春物を買うという過去の購買動向はなく、必要になれば買うという購買動向で気候に左右される。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・季節の変わり目であり、天候も不安定だが、春物に動きが見られない。客はバーゲン商品についても価格訴求しているものをより慎重に吟味する傾向が強まっている。一般の客が買物に消極的なことがわかる。
スーパー（店長）	販売量の動き	・販売点数は若干伸びているが、1品単価が落ちており、その分売上になかなか反映されない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・売上、来客数、客単価共に減少した。特に来客数が前年比3%も低下しているが、前月比では変わらず、底で安定している。客はそれぞれの店が得意とする曜日をそれぞれ選んで来店している様子である。価格が優先され、固定客からさらに流動客へと変わっている。
スーパー（店長）	お客様の様子	・先行き不安感からくる消費者の節約志向は強まったままで、快方に向かう気配がない。食料品も他社との値下げ競争から収益が非常に悪化している。特に今月は衣料品の売上が前年に比べ減少した。
スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・同業他社とも相変わらず価格引き下げ傾向が続いている。消費者の価格に対する興味が他の付加価値より強い状況が続いている。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数はほぼ前年並みであるが、実質買上客数は伸び悩み、前年割れである。商品を見て回るだけという客が多く見受けられる。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・例年では3月中旬から気候も良くなり、春休みに入ることから飲料、アイス等が急激に売れ始めるが、今年は気温も低く客の入りも悪い。しかも春、夏物の商品が売れず、前年を大幅に下回っている。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・入卒用スーツや旅行用の服等、目的がある客は来店するが、なんとなく見て歩く客は少ない。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・3月の出だしは春物を求める客の買上が順調であったが、後半はいつまでも寒い状況が続き、伸びがストップした。ただし、近隣百貨店のオープンに伴い周辺の集客が非常に増え、来店数は非常に多かったが、買上単価は非常にシビアであった。
衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・商談の過程において、いざ買うとなるともう少し待つとかセールはいつだとかという話が頻繁に出てくる。

乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・3月は年間の最大需要期であるが、販売量は前年よりかなり改善した。ただ、単価については依然として低価格の割合が高い。	
乗用車販売店 (管理担当)	販売量の動き	・エコカー減税の効果と季節的要因で、来客数、売上高のいずれもまずまずであった。	
その他専門店 [ガソリンスタンド](統括)	お客様の様子	・燃料油の販売状況は前年と変わらない状況だが、顧客の子女の就職がまだ決定していない等、雇用状況は厳しい。	
一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・3か月前と売上がほぼ変わらず、伸びがない。	
観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・歓送迎会シーズンで前年とほぼ同等の実績を上げているが、婚礼に関しては競合施設が増えたため苦戦している。	
都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・前年との比較でも約10%程度の単価ダウンとなっており、集客だけは何とか目標を達成しているものの、売上は減少している。	
旅行代理店(業務担当)	販売量の動き	・若干の回復基調が見られるものの、大きな改善とはなっていない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・今の時期は歓送迎会で人が良く動く時期であるが、夜の繁華街は全く客の動きがなく、日中、日帰りで買物に行く若い人が多い。	
タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前の忘年会時期もたいして忙しくなかったが、今の花見シーズンでもあまり活気がなく、変わらない。	
通信会社(管理担当)	それ以外	・資金繰りの厳しい状態が続いている。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・客の携帯電話の申込数が少なくなっている。	
通信会社(業務担当)	販売量の動き	・今月は年間で最大の需要期であるが、学生やパソコンセット等、新規台数はある程度伸びているが、家族の同時購入による取替台数は厳しい状況である。	
ゴルフ場(従業員)	単価の動き	・プレー料金を下げると来客数が若干増えるという状況である。逆に海外客、特に中国人は伸びており、使う金額が違うことに驚かされた。	
美容室(店長)	お客様の様子	・来客数はあまり変わらないが、客からは景気が悪いという話は聞かない。	
音楽教室	お客様の様子	・例年、春の生徒募集時は非常ににぎわうが、今年にはにぎわう年齢とそうでない年齢の差が激しい。トータルでは前年並みかそれ以下なので、傾向は変わらない。	
その他サービスの動向を把握できる者[介護サービス](管理担当)	お客様の様子	・過去と比較しても大幅な売上減や顧客減、またサービスの利用減はみられない。	
設計事務所(所長)	お客様の様子	・企画もぼちぼち入っているが、契約には至らない状況である。	
住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・3月単月の契約件数が前年、前月に比べいずれも伸びている。	
住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・客からの物件に関する交渉、内諾、売却等の問い合わせ数が前月と変わらない。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・卒入学就職等でかなり出費があり、食に対する消費が控えられている。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・天候の不順、雨、寒い日が多く、来客数の減少がみられる。
	一般小売店[鮮魚](店員)	販売量の動き	・とにかく物が売れない。しけ続きで単価は上がっているが、売れないため売値を下げざるを得ない。利益が少なくなっている。
	百貨店(営業担当)	単価の動き	・商品単価については、米国の大手金融機関の破たんから1年経過し、以前ほどのマイナス幅はないが、まだ前年並みには達していない。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・来客数は3か月前から2%ほど上がっているが、売上は3%下がっている。3月は寒暖の差があり、特に婦人衣料が悪い。ヤング、紳士共に客単価が前年比10%減、婦人衣料品も同6~10%減の傾向がまだ続いている。ただし、紳士については前年実績を確保しており、スーツ系が良くなった。また、リビング関係の動きが今月はかなり良く、前年実績を超えている。他の百貨店はかなり苦戦しており、当店が一番良い。

	百貨店（企画）	販売量の動き	・前年3月は米国の大手金融機関の破たんの影響を受け、売上高は前年比90%と大不振であったが、本年もさらに前年比92～93%台で推移している。直近月の売上高も相変わらず低水準で推移している。ハウスカードのポイントアップフェア等は好況だが、普段の売上低迷に歯止めが掛かっていない。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・年明けからずっと悪く、今月も前年比82%で推移している。特に生肉が悪く同80%台となったほか、魚も悪く、全般的に消費は冷え込んでいる。
	コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・予算比、前年比とも下回っている。前年比では約6%減、3年前と比べると9%減少しており、悪い状況が続いている。他社との競合に負けている面もある。
	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・大手自動車メーカーのリコール発表を境にして新車受注が減少し、以前の勢いがなくなった。ただし、前年比では150%程度をキープし、会社全体では前期比増収増益となっている。
	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・高速道路ETC特需が終わったため、来客数が伸びない。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・前年2月は売上が大幅に減少していたが、今年は毎月のキャンペーンに回復の兆しがあり、全体的に低調であった前年並みには届きそうである。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月終わりに送別会の予約が結構入ったが、それまで動きが鈍く苦戦した。ただ、送別会が前年より増えてきた。
	スナック（経営者）	単価の動き	・来客数の落ち込みは下げ止まりつつあるが、客単価が大幅に低下している。
	その他飲食〔居酒屋〕（店長）	来客数の動き	・来客数が少なく、人通りも少ない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・歓送迎会で夜は忙しいが、日中の客は団体ばかりで、タクシーに乗車する客は少ない。
	通信会社（総務担当）	お客様の様子	・県内の景気は、このところ足踏み感が見られ、特に雇用・所得は悪化の度合いが弱まっている。とは言うものの、個人消費は全体として弱まって推移しており、回復感には乏しい。
	ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・例年に比べ寒気の停滞など悪天候が続く、来客数が落ち込んでいる。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・1年のなかで3月は12月に続いて良いはずであるが、客の財布のひもが固い。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	単価の動き	・平成22年度の国の予算は、公共事業費が18%減となった。当地は公共工事等に携わる民間業者が多く、平成22年4月以降はさらに悪い方向になる。
悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・従来であれば処分品を出すとすぐに購買行動に移っていたが、客は処分品そのものを更に処分品として出しても買わない、試着しても買わないという状況である。
	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・相場の状況はかなり厳しい。例年にないこの時期の寒さと長雨で野菜の入荷がかなり少ないほか、関東、関西方面からの引き合いが強く、産地高もあり、ピーマン、きゅうり、トマトが高騰した。また、県産のレタス等が長雨で入荷がかなり少なく、販売量の割には相場が高く、売りづらい状況が続いている。
	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・定価品の動きが少なく、バーゲン品や良質ながら価格が安い商品の動きが目立つ。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・販売量が少なくなってきたおり、単価も落ちてきている。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・悪いと言っても悪いなりに前年の実績に近い売上である。なんとか売上を確保したい。
	高級レストラン（専務）	単価の動き	・単価がどんどん落ちており、ドリンクサービスをしたり、人数が集まったら1人分無料になる特典がなければ客が来なくなる。現在は歓送迎会等で多いが、その後はまた来客数が少なくなり、単価の下落とともに厳しい状況となる。
	競馬場（職員）	販売量の動き	・前年比10%以上の販売量の減が継続している。
企業動向	良くなっている		

関連	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月の需要期の受注量は前年比15%伸びたが、2年前と比較すると15%減少している。福岡市を中心に大型商業施設のオープンや来年春の新博多駅ビル開業を控え、景気上昇感がある。
		出版・印刷・関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年度末の企業が多く、駆け込みの受注が増えた。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年後半と今年の前半は休業補償を受けるほど受注関係が大変悪かった。現在は受注はいくらか回復基調にあり、ギフトもいくらか回復した。しかしまだまだ普通の商品の動きは鈍い。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・コストは大変厳しいが、仕事量の確保はそう難しくなっている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月はここ数か月のなかでは物が動いている。昔ほどではないが、徐々に受注量、販売量も増えている。しかし一番問題なのは、1、2月売れなかったためにメーカーは減産しており、今月になって予想以上に売れ始めたため生産が追いつかず、売りたいのに物がなく売れない状態になっていることである。
		金融業（調査担当）	受注量や販売量の動き	・輸送用機械や一般機械などを始めとして生産が堅調に推移しており、生産活動は持ち直しの動きが続いている。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・2、3月連続で前年比110%弱であり、良い状況となっている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・不況の底を抜けてつとると発言する取引先が多くなってきた。
		その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・期末要因も若干はあるが、設備投資案件の引合が小口ながら3か月前より増加傾向にあり、契約額もそれとともに約10%強増加している。
		変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き
繊維工業（営業担当）	取引先の様子		・繁忙期の今月にばたばたとしているのは閑散期の受注があまりにもひどかったためであり、結局は受注機会を逃している。	
一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き		・地方の小企業にとって景気が上向きになっている実感は全くない。	
電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き		・受注量はある程度確保できるが、価格が厳しい。	
電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子		・半導体関連、コネクタ・関連は全般的に非常に良い方向に動いている。現状はフル操業の状態が続いてるし、2番底の心配は現在のところ全くない。今後も現在の傾向が続く。また、精密機械部品に関しても全体として良い方向で動いている。	
輸送業	受注量や販売量の動き		・東京・大阪では少し景気が回復してきているように聞かすが、九州ではあまり良い話を聞かない。	
輸送業（総務担当）	取引先の様子		・年度末なのに荷動きが良くない状況である。	
金融業（営業職渉外係）	取引先の様子		・受注の持ち直しなどにより業績が好転しつつある企業があるが、融資の元金返済支援要請を行う企業もあり、必ずしも景気が良いとは言えない。	
金融業（得意先担当）	取引先の様子		・ここ1か月の取引先からの資金借入の内容をみると、当面の運転資金確保という後ろ向きの資金需要が多い。また、個人からの申し入れに対しても、取引先の業況悪化による給与の削減等に伴う既存の借入金の条件変更が多数を占めている。まだまだ景気は上向きにはない。	
金融業（営業担当）	取引先の様子		・年商1億円未満の中小企業の資金需要は低迷した状態が続いており、経営者の設備投資の意欲もいまだ低い状況が続いている。	
新聞社（広告）	受注価格や販売価格の動き		・旅行、レジャー広告は増加傾向にあるが、年度末の駆け込み出稿が例年より少なく、地元金融、通信販売広告の減少もあり、全体的に景気は回復していない。	
経営コンサルタント	受注量や販売量の動き		・2月よりは充分好転しているが、全般的に売上がどの業界も厳しい。ただ、3月後半から少し人の動きが出てきており、売上等は前半より若干伸びているという話を聞く。	

		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・セミナー関係の参加者が大幅に減り出した。セミナーのテーマでは、コスト削減や省エネといった内向きのテーマに人気が集まっている。
	やや悪くなっている	食料品製造業（経営者） 建設業（社員）	受注量や販売量の動き 競争相手の様子	・1、2月に比べると回復しているが、悪化傾向は続いている。 ・3か月前の一般競争入札では参加業者が25～30社だったが、先日実施された一般競争入札には45社の参加があり、また34社の業者が失格している。現在の手持ち工事の手薄な状況と今後の受注確保に向けた姿勢が、今回の入札に表れた。
	悪くなっている	経営コンサルタント その他サービス業	取引先の様子 競争相手の様子	・酒類卸の合併が始まった。大手全国規模卸のみ生き残り、地方卸は全滅傾向にある。 ・入札時に価格をダンピングして入札する 경우가かなり多くみられる。その頻度が高くなり、大手企業も同じことをするようになってきている。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・今までの人員計画で売上決算した結果、業績的に改善が図れている企業については、新年度に入るにあたり多少増員できる傾向となっている。
		人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・前年に比べ、企業からの求人申込の件数の伸び率が前3か月より高くなってきた。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人の取扱件数がここにきて伸びてきた。ほぼ前年並みに推移している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・底を打ったという印象はあるが、発注数や単価が増えたという事はない。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・派遣が終了になっても後任を入れる企業が少なく、先行きが不透明という企業が多い。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前月に引き続き派遣の引き合いは少ない。部署都合などで終了する派遣先もかなりあり、全体としては派遣先数は減少している。
		新聞社〔求人広告〕	求人数の動き	・求人数は依然として低迷したままである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・年明けから新聞の求人広告が徐々にではあるが増えてきた。看護医療系、塾講師などの求人が中心である。ただし、正社員や新卒の求人募集は引き続き厳しい。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・2月の新規求人数は前年比25.6%減となった。2年前と比べると38.0%減となっており、雇用は厳しい状況が続いている。
職業安定所（職員）		求人数の動き	・2月の新規求人数は前月比22.7%減、前年比11.6%減となっている。月間有効求人数も前月比1.9%減、前年比7.3%減と厳しい状況である。地方自治体が行う新事業関連の臨時求人が目立っており、経済対策、雇用対策の後押しがあっても求人が減少している。企業自体の自力回復感は非常に弱い。	
職業安定所（職員）		求人数の動き	・新規求人数が2か月連続で前年比プラスに転じたが、形態別ではパート求人の増加によるところが大きく、一般求人は減少しているため、求人意欲の改善には至っていない。	
学校〔専門学校〕（就職担当）	雇用形態の様子	・緊急雇用対策による行政の求人ばかりで、付け焼刃に過ぎない。		
	学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・3月に卒業した学生に対する求人は極めて低調なままで推移した。平成23年3月卒業見込み者に対する求人も受理しているが、前年を下回る水準で推移している。	
	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・引き続き求人状況が厳しい。	
	やや悪くなっている	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・3月末での派遣終了件数が1、2月に比べて10%以上増加しているが、1、2年前と比較すると落ち込みは少なくなっている。
	悪くなっている	民間職業紹介機関（支店長）	それ以外	・新規発注が皆無であり、客の派遣離れが加速している。